

地域支援だより

きらりNet

令和2年11月20日

第108号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

居住地校交流 with コロナ



今年度、居住地校交流を希望した児童生徒は、小学部10名（9校）、中学部6名（5校）でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直接交流を中止しました。大変残念な出来事ですが、これまでの積み重ねの中で手紙やDVD、リモートでの交流を行いました。今年だからこそ、つながることの大切さを実感する交流となりました。

<リモート交流>

秋田きらり支援



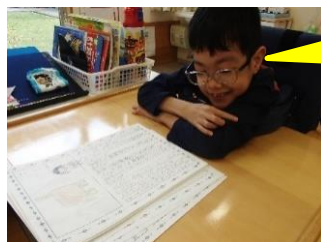
みんな待っているよ！



鶴舞小

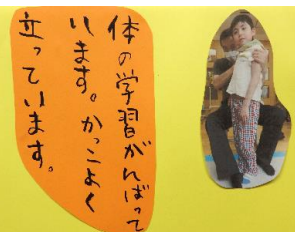
<手紙で交流>

こんな勉強をしているんだ。



↑日新小から

上北手小へ→



原籍校からの友達を気遣う言葉掛けは、原籍校を離れ、医療療育センターでの治療や本校で学習している児童を勇気づけてくれました。そして、お互いに学級のつながりを大切にしようという思いを深めました。手紙を何回も読み返す児童は学習への意欲が高まりました。

<DVDと手紙で交流>

居住地校から合唱コンクールのDVDと手紙が届きました。リズムを刻んでコンクールの様子を楽しく鑑賞し、お礼の手紙を書きました。



山王中の合唱コンクールを視聴

昨日は、山王中の合唱コンクールを視聴しました。リズムを刻んでコンクールの様子を楽しく鑑賞し、お礼の手紙を書きました。手紙を何回も読み返す児童は学習への意欲が高まりました。

学校間交流で城南中に送った手紙と応援メッセージが合唱コンクールで紹介されました。



<障害者理解の出前授業>

出前授業では、学校紹介の他、困り感や車椅子操作の体験を実施しています。体験を通してコミュニケーションの取り方や、相手の気持ちを想像して関わることの大切さを感じ取ってもらっています。中学校では、障害のある人を支える様々な職業があることも紹介しています。



御所野学院中

<中学部保護者の声>

地域で生きていくためには、地域との関わりが大事だと思います。小学部入学時から居住地校交流をお願いし、中学部でも続けてきました。

今回のコロナ禍においても、このような形で継続することができて感謝しています。このようなつながりを大事にしていきたいです。

(文責：木村淳子)



実践紹介⑤ 高等部

総合的な学習の時間（3年）・総合的な探究の時間（1, 2年）

高等部1・3組の「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」では、創立10周年を迎えたきらり支援学校をもっとよく知るために「きらりの『輝く10年』を振り返ろう」という学習を行いました。その学習の中で、「きらり支援学校を紹介しよう」ということになりました。

何を紹介するか？どうやって調べるか？生徒たち自身がテーマを設定し、資料を調べたり関係者にインタビューをしたりしてまとめました。

校名はどうやって決まったのか？これまでに来校した有名人は？広い廊下の秘密など、普段特別に意識していなかったことをじっくりと調べることで新しい発見がありました。また、調べるうちに新たな疑問も生まれました。それを解決するために再び調査を進めたり、調査方法を変えたり…。友達と話し合い、協力し合いながら自分たちの学校を改めて紹介しました。

調査結果を廊下に掲示すると「見応えがあってとても面白かった」「何気なく見過ごしていたことを、改めて教えてもらった」などたくさんの感想をいただきました。また、生徒自身からは「学校のことを深く知る良い機会になった」「最初は興味がなかったけど、調べるうちに楽しくなった」「みんなまで考えを出し合っ、相談して、調べる力がついたと思う」という感想が出されました。

試行錯誤をしながらの調査活動でしたが、自分たちで課題を解決していく難しさと達成感を味わえたと思います。

（文責：小川順子）



「きらりの『輝く10年』を振り返ろう」

教育専門監のコーナー

【「わかって動ける」授業、五つの観点と授業づくり】

○「わかって動ける」授業とは？

授業目的がわかって、自ら積極的に活動に参加できる授業のことをいいます。

○「わかって動ける」授業の五つの観点は？

- ・目標・内容をより高くより広くする。
- ・学びの機会・活動量を増やす。
- ・主体的な参加を促進する。
- ・充足感・満足感・達成感を生み出す。
- ・興味・関心を引き出し育む。

○「わかって動ける」授業の条件は？

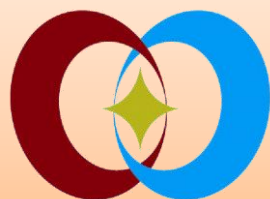
- ・授業のねらいが明確である。
- ・物理的環境による支援がなされている。
- ・支援ツールが十分に活用されている。
- ・豊富な学習機会が設けられている。
- ・多様で多重な評価機会が設けられている。

参考「特別支援教育における授業づくりのコツ」藤原義博、小林真、阿部美穂子、富山大学人間発達科学部附属特別支援学校（2013）

《一人一人の主体的な学び》

高等部では、生徒の主体的な活動と意欲的な参加を目指し、様々な情報を整理し、結論を導き出す探求活動と、仲間との協同で理解や習得を促す協同学習による取組を進めています。大切にしているのは、豊富な人とのやり取りと、多様で多面的、多重的な評価。生徒は、仲間との探求・協同により多様な結論を導き出していきます。結論を導き出す主体的な努力とそのプロセスで得る「自分にもできた」「できなかったことが、できるようになった」という生徒の感情。このような達成感、満足感というポジティブな感情を引き出す学習の提案は、学校の大切な役割といえます。仲間との探求・協同で、課題に向かう経験と建設的に意見を述べ、相手の意見を認める仲間との合意形成は、生徒に周囲のサポートを受けながら、困難に対処していく力と、将来を見通し行動する力をもたらします。

〈文責：二階堂 悟〉



教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575



「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>